

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2019 年 12 月 12 日 (木) 1 限 実施
後期②考查
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ～ [50])

第 1 問 次の文章を読み下の問い(問 1～問 7)に答えよ。(配点 18)

仏陀の死後 100 年ほどたつと、仏教教団は仏陀の教えの解釈をめぐり、仏陀の言行に忠実にしたがおうとする上座部と、仏陀の精神を重視する大衆部とに分裂した。この二派はさらに分裂を重ねて、紀元前 2 世紀ごろには、二十の部派に分かれた。これらを部派仏教という。部派仏教では、もっぱら仏陀の教えを分類し整理して、教えの意味の解釈や体系化がなされ、のちの仏教理論の基礎が形成された。また、彼らは仏陀の言行を解脱の方法として理解し、きびしい修行によって、[1] となることをめざした。

紀元前 1 世紀ごろになると、おもに大衆部の流れをくむ布教師や在家信者などのあいだから、大乘仏教の運動がおこった。彼らは、従来の上座部系の部派仏教の教えを自己の解脱のみを考える、小さな劣った教えであると批判して小乗仏教とよび、仏陀の言行の精神は、すべてのものの救済をめざす [2] にあると考えた。ここから大乘仏教では、この世に生きとし生けるものすべて(一切衆生)の救済をめざして修行する、菩薩のあり方が理想とされた。彼らは、一切は空であるとの立場に立ち、(a)六波羅蜜の実践を通して、他者の救済と自己の悟りをめざした。

大乘仏教の教えは、(b)ナーガールジュナ(竜樹)の空の思想によって、理論的に確立された。彼は、縁起の考えを徹底させて、すべての事物は (c)無自性であると説いた。このことを一切皆空(五蘊皆空)という。

彼の理論によって、煩悩や苦行もまた固定的なものではなくなり、迷いのなかにある凡人にも仏となる可能性が開かれることになった。すなわち、この考え方は、自己の悟りと他者の救済にへだてを設けない慈悲の立場や、(d)すべての生きものに仏となる可能性(仏性)を認める考えにつながるものであった。大乘仏教の根本を確立した竜樹は、のちに中国や日本において、多くの宗派の祖として重んじられた。

さらに 4 世紀ごろには、(e)唯識の思想がアサンガ(無著または無着)、ヴァスバンドゥ(世親)兄弟によって唱となえられ、大乘仏教の有力な学説として、(f)後世に大きな影響をあたえた。

(g)大乘仏教はインドから北方に伝わり、1 世紀ごろには中国に、4 世紀には朝鮮に、6 世紀には日本に伝わった。一方、上座部系の仏教はスリランカや東南アジアに伝わった。この系統の仏教は、今日でも、タイやミャンマーなど東南アジア諸国で多くの人々に信奉されている。

問 1 文章中の空欄 [1] ～ [2] に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[1]

〔	① 仏陀	② 阿羅漢
	③ 菩薩	④ 阿修羅

[2]

〔	① 自利	② 解脱
	③ 縁起	④ 慈悲

問2 下線部(a)に関連して、六波羅蜜についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[3]

- ① 般若ともいわれる智慧
- ② 出家も在家もそれぞれの戒律を守る持戒
- ③ 対象に心を集中し、散乱する心を安定させる禅定
- ④ 巧みな手段で衆生を導く方便

問2 下線部(b)に関連して、ナーガールジュナの著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[4]

- ① 唯識二十論 ② 中論 ③ 阿毘達磨俱舍論 ④ 瑜伽師地論

問3 下線部(c)に関して、無自性の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[5]

- ① 相互に依存しているだけではなく、それ自身として固定的に存在するのではない
- ② 相互に依存しているだけではなく、それ自身として固定的に存在している
- ③ 相互に依存するのではなく、それ自身として固定的に存在するのでもない
- ④ 相互に依存するのではなく、それ自身として固定的に存在している

問4 下線部(d)に関して、この考え方の名称として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

- ① 大乘非仏説 ② 中観説 ③ 如来蔵説 ④ 空論

問5 下線部(e)に関して、唯識論についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 三密加持で自己を実在界の一個の象徴と化することによって即身成仏をはかる
- ② すべての存在はその固有の本質をもたず、空である
- ③ 我々が法を経験できるのは現在の一瞬間にすぎない
- ④ 実在するのは心のはたらきだけであり、外界の事物は意識の産物にすぎない

問6 下線部(f)に関して、唯識の思想を学説とした宗派として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 律宗 ② 法相宗 ③ 華嚴宗 ④ 三論宗

問7 下線部(g)に関して、次の密教についての説明の中の空欄【 A 】に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[9]

【 A 】は密教の中心本尊である。サンスクリット名マハーバイローチャナの訳で、摩訶毘盧遮那と音訳し、単に毘盧遮那仏ともいう。その智慧の光明があまねく一切に及び、慈悲の活動が永遠不滅とされ、密教の体系ではすべての諸仏諸菩薩はこの如来より出生したとされる。『大日経』に説く胎蔵界【 A 】と、『金剛頂経』に説く金剛界【 A 】の2種があり、両経が展開する説に基づいた、いわゆる両界曼荼羅の中心に位置する。

- ① 大日如来 ② 虚空蔵菩薩 ③ 不動明王 ④ 薬師如来

第2問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 14）

中国の思想は、古代封建国家の周が崩壊し、春秋・戦国時代になると多様に花開く。特に仁と礼を説く儒家と道家の思想は、現代にいたるまでの中国社会の思想伝統を形成すると同時に、日本や東アジアの思想形成にも大きな影響を与えている。

〔 10 〕を滅ぼした (a)周王朝は、王（天子）の下に血族を諸侯として封じ、土地を世襲させる〔 11 〕を確立した。しかし春秋時代の末期にいたり、その〔 11 〕が崩壊し始めると、諸侯はそれぞれ富国強兵に努め、国の秩序安定をはかるために、広く思想家や政治家を世にもとめた。これに呼応してあらわれたさまざまな思想家たちを総称して諸子百家という。(b)陰陽家、儒家、(c)墨家、名家、(d)法家、道家、縦横家、雑家、(e)農家など、それぞれ多彩な思想活動を展開した。

問1 文章中の空欄〔 10 〕～〔 11 〕に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|--------|--------|
| 〔 10 〕 | 〔 | ① 夏 | ② 秦 |
| | | ③ 殷 | ④ 漢 |
| 〔 11 〕 | 〔 | ① 神政政治 | ② 封建政治 |
| | | ③ 神権政治 | ④ 王道政治 |

問2 下線部(a)に関連して、周代に生み出された占いについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔12〕

- ① 判断を甲骨に刻みつけ、占いの対象について実際に起きた結果が追記された。その際に使われた文字が甲骨文字である。
- ② 筮竹を操作した結果、得られる記号である卦は「爻」と呼ばれる横棒によって構成されている。
- ③ 生まれた年、月、日、時、の四つ干支を柱とし、その人の生まれ持った可能性を推し量るものである。
- ④ 対象となる者に、神に潔白などを誓わせた後、釜で沸かした熱湯の中に手を入れさせ、正しい者は火傷せず、罪のある者は大火傷を負うとされる。

問3 下線部(b)に関して、陰陽五行についての次の記述の空欄〔13〕に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

土気から生じる〔 13 〕気は、方位では西、季節では秋、白がその色をあらわす。

- ① 木 ② 金 ③ 火 ④ 水

問4 下線部(c)に関連して、次の墨子の思想についての記述の空欄[14]に入る最も適切な語を、次の①～④のうちから一つ選べ。

「[14]」には別れているものを一つに合するという意味がある。「別」はその反対である。墨子の時代には、周代の政治秩序はすでに没落解体の途上にあったが、まだ遺制としてかなり根強く生き残っており、世襲的な貴族の身分制、つまり「別」（差別構造）が社会進歩のガンになっていた。墨子はこういう血族の制約を乗り越えて、身分差のない「[14]」（共同体）の社会を作る必要があると説くのである。

- ① 礼 ② 義 ③ 仁 ④ 兼

問5 下線部(d)に関して、韓非子の言葉の中の空欄[15]に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

明君がおさめる国家では、聖人の道を説く経典（詩経や書経など）は見当たらず、人々は[15]のみを経典とする。古代聖王（堯や舜など）の言葉を師とは仰がず、官吏だけを教師と仰ぐ。

- ① 罰 ② 礼 ③ 法 ④ 徳

問6 下線部(e)に関連して、農家の思想家として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 許行
② 鄒衍
③ 孫子
④ 恵施

第3問 次の文章を読み下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 18）

孔子は、社会秩序を実現するには、「これを導くに政を以てし、これを斉うるに刑を以てすれば、民免れて恥なし。これを導くに〔 17 〕を以てし、これを斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格し」と考えた。為政者みずからが、まず道徳的体現者である〔 18 〕たることを目指し己を修め、その感化によってこそ人を治めること（修己治人）ができると考えたのである。

また『論語』に「怪力乱神（怪しげな力や神秘）を語らず」とあるように、孔子は神秘的なものに積極的な関心をもたなかった。また「いまだ生を知らず、いづくんぞ〔 19 〕を知らんや」と、あえて〔 19 〕の問題を語ろうとしなかった。もっぱら孔子の関心は「朝に道を聞かば、夕に〔 19 〕すとも可なり」とまでいった道にあった。もっとも彼は、富貴や名誉を望むこと自体を否定しようとはしなかった。孔子はただ、それらの欲望を正しい道によらないでもとめることを否定したのである。

孔子はこの道を、心のもち方としての仁と、形としての〔 20 〕の二つの側面からとりあげている。心のもち方としての仁は、孔子自身もさまざまなしかたで説き、弟子たちもさまざまなに解釈しているが、それはまず何よりも「人を愛すること」である。「〔 21 〕なるものは、それ仁の本なるか」というように、仁は親子・兄弟の間に自然に発する親愛の情として示されるものであり、それをさまざまな人間関係におしひろめていくことであった。孔子が他人に対する心のもち方として説いたことは、まず自分のわがまま、私利私欲をおさえることであり、(a)人の心を思いやることであった。それは具体的には、「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」であり、「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す」、などであった。そしてさらには、常に自分を欺かず、(b)まごころから人に接して人を欺かないことなどがもとめられた。このような心のもち方は、すべて仁をなす心のもち方であり、人間はいついかなるときでも、心に仁を守るべきであると説いている。

問1 文章中の空欄〔 17 〕～〔 21 〕に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- 〔 17 〕

① 法	② 徳
③ 礼	④ 力

- 〔 18 〕

① 真人	② 大丈夫
③ 君子	④ 至人

- 〔 19 〕

① 神	② 死
③ 魂	④ 霊

- 〔 20 〕

① 礼	② 義
③ 信	④ 智

- 〔 21 〕

① 孝悌	② 克己
③ 忠恕	④ 忠信

問2 下線部(a)に関連して、おもいやりを意味する語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[22]

- ① 恕 ② 忠 ③ 信 ④ 仁

問3 下線部(b)に関連して、まごころを意味する語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 恕 ② 忠 ③ 信 ④ 仁

問4 次の論語からの引用文についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[24]

顔淵、仁を問う。子曰く、己に克ちて礼に復するを仁と為す。一日己に克ちて礼に復すれば天下仁に帰す。仁を為すは己に由る、而うして人に由らんや。顔淵曰く、請う、その目を問わん。子曰く、礼に非ざれば視ること勿れ、礼に非ざれば聴くこと勿れ、礼に非ざれば言うこと勿れ、礼に非ざれば動くこと勿れ。顔淵曰く、回、不敏と雖も、請う、斯の語を事とせん。

- ① 仁とは己のやりたいことを実行するために礼を行うことである。
② 仁を行うのは自分自身の力によるものであり、他人によるものではない。
③ 礼にかなわないものをしっかり見とどけることが仁の眼目である。
④ 顔淵は孔子の言葉を理解できなかったので、それを謝罪した。

問5 五経についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① 書経には、堯・舜の世の記録、禹および夏王朝の記録、文王、武王、周公を主人公とする記録などが描かれている。
② 詩経は、中国最古の詩集であり、黄河流域の諸国や王宮で歌われた詩歌 305 首を収めたものである。
③ 易経は、占いのためのテキストで 64 種類の象徴的符号の卦と、そのおのおのに付された短い占断の言葉から成っている。
④ 礼記は、魯の隠公元年（前 722）から哀公 14 年（前 481）に至る 242 年間の国家的大事を略記した年代記である。

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 16）

孟子は、孔子が人間性に信頼をおいていたことにもとづき、人間は本来、善におもむこうとする存在であるととらえ、(a)性善説を唱えた。彼によれば、人間は生まれながらにして、他人の不幸を見すごすことのできない〔 26 〕の心をもっている。たとえば、幼児が井戸に落ちようとするのを見れば、だれでもかわいそうに思っ、その子を助けるであろう。それは、助けたいという心が自然にわくからである。

四徳が我々の心身に充実してくると、人生のいかなる局面にあっても毅然とした不動の心である (b)浩然の気があらわれる。このような人を、孟子は〔 27 〕とよんで理想とした。

内面の徳をあらわす四徳とならんで、孟子は、社会生活の秩序として(c)五倫の道を説いた。五倫とは人間関係を成り立たせる基本的な秩序をいう。五倫の道は、のちに、漢代の儒者董仲舒が説いた (d)五堂の教えとともに、儒教道德の根底を形づくっていった。

また、四徳のなかでも仁と義を重視した孟子は、仁義がゆきわたった政治こそが理想であるとした。彼の求めた政治のあり方は、(e)王道政治とよばれる。

孟子の性善説に対し、荀子は性悪説を唱えた。彼は、人間は本来私利をむさぼり、他人を憎む性質をもつ者であるから、自然のままにしておく欲を追い求め、たがいに争うことになると考え、規範としての〔 28 〕によってその性質を人為的に矯正していく必要があると説いた。

問1 文章中の空欄〔 26 〕～〔 28 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [26] ⎧ ① 惻隠 ② 是非
 ⎨ ③ 羞惡 ④ 辞讓

- [27] ⎧ ① 大丈夫 ② 真人
 ⎨ ③ 至人 ④ 君子

- [28] ⎧ ① 令 ② 礼
 ⎨ ③ 法 ④ 律

問2 下線部(a)に関して、性善説に関する孟子の次の文の空欄【A】【B】に入る語として最も適当なもの、下の①～⑥のうちから一つ選べ。[29]

孟子曰く、人の學ばずして能くする所の者は、其の【A】なり。慮（おもんばか）らずして知る所の者は、其の【B】なり。孩提（ガイテイ：二、三歳の子）の童（わらべ）も其の親を愛することを知らざる者はなく、其の長ずるに及びて、其の兄を敬することを知らざる者はなし。親を親しむは仁なり。長を敬するは義なり。他なし、之を天下に達（おしおよ）ぼすのみ。

- ① 【A】良知 【B】良心 ② 【A】良知 【B】良能 ③ 【A】良能 【B】良知
④ 【A】良能 【B】良心 ⑤ 【A】良心 【B】良知 ⑥ 【A】良心 【B】良能

問3 下線部(b)に関して、浩然の気を養った状態の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[30]

- ① ありのままの自然な状態に身をゆだねて悠々と遊ぶ状態。
- ② 宇宙の秩序を知って、その秩序にかなった行為をする状態。
- ③ 悪なる性を矯めることによって道徳的な人格を完成させた状態。
- ④ どんな困難にあっても徳を実践しようとする気概を持った状態。

問4 下線部(c)に関して、五倫の道の内容として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[31]

- ① 君臣の序 ② 夫婦の親 ③ 父子の義 ④ 朋友の信

問5 下線部(d)に関して、五常についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[32]

- ① まごころと思いやりを持って他と接する仁
- ② 友情に厚く、言明をたがえないで真実を告げる義
- ③ 利欲にとらわれず、なすべきことをする信。
- ④ 善悪を分別し道理をよく知り得ている礼。

問6 下線部(e)に関して、王道政治についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[33]

- ① 民の生活と安全を守るため武力や謀りごとを用いて力の政治を行う。
- ② 民意にしたがわない君主は、天命を失ってその地位から追放される。
- ③ 人民のことを第一に考え、徳にもとづいた政治を行う。
- ④ 民がもっとも大切であり、土地の神や穀物の神がそれにつぎ、君主はもっとも軽い。

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 16）

春秋時代から漢代のはじめにかけて、のちに (a)四書および(b)五経として重視されることになった儒教の多くの教典が成立した。その後の儒家の思想は、これらの教典を体系的にどのように理解するかによってさまざまに発展した。漢代以降の儒家の思想をそれ以前と区別して儒学というが、その代表的なものは宋代の (c)朱子（朱熹）の朱子学と〔 34 〕代の (d)王陽明の陽明学である。朱子は、天地万物は、そこに内在する宇宙の規範原理である理と、その物質的要素である〔 35 〕とによって構成されていると説く。こうした考えにしたがって、朱子は、万物にやどる理を窮め、心身を修養してこの (e)理につつましみたがうべきことを説き、そのような努力によってみずからの知を高度におしすすめることを重視した。

一方、王陽明は、理を天地万物に内在する客観的なものとしてとらえる朱子学の考え方にあきたらず、理を人間の〔 36 〕に見だし、生まれながらに備わっていると考えた。そして、その生まれながらに備わっている (f)善悪を判断する能力のままに生きることを主張した。さらに彼は「知は行のはじめであり、行は知の完成である」という〔 37 〕の立場をとって、実践を重んずる考え方を説いた。

問1 文章中の空欄〔 34 〕～〔 37 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

〔34〕 ① 元 ② 清 ③ 唐 ④ 明

〔35〕 ① 素 ② 質 ③ 物 ④ 気

〔36〕 ① 体 ② 頭 ③ 性 ④ 心

〔37〕 ① 行先知後 ② 知行合一 ③ 知先行後 ④ 徳福一致

問2 下線部(a)に関して、四書の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔38〕

- ① 大学、春秋、論語、荀子 ② 大学、春秋、論語、孟子
③ 大学、中庸、論語、荀子 ④ 大学、中庸、論語、孟子

問3 下線部(d)に関して、王陽明の著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔39〕

- ① 近思録 ② 翁問答 ③ 伝習録 ④ 集義和書

問4 下線部(e)に関して、理につつましむ従うことをあらわす語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔40〕

- ① 窮理 ② 格物 ③ 居敬 ④ 致知

問5 下線部(f)に関して、善悪を判断する能力を意味する言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔41〕

- ① 惻隠 ② 辞讓 ③ 四端 ④ 良知

第6問 次の文章を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 18）

老子は、万物がそこから成長するもの、万物の存在を成り立たせているものを、仮に名づけて道（タオ）とよんでいる。そして道自体は対象としてとらえられないから、名づけようがないという意味で、[42] でもあるという。万物は [42] から生じて [42] に帰る。この [42] から有、有から [42] への運動は、永遠にくり返され、すべてのものは変転する。したがって人々が福と思い禍と思うものも絶対的でなく、福はやがて禍に、禍もやがて福に転ずるものだと言っている。

それゆえ老子は、道徳や文化などは人間が作為した [43] 的なものであると考え、儒家の教える道徳はすべて、世が乱れたためにやむをえず説かれたものであるとしている。そのことを老子は、「大道廢れて [44] 有り」といっているが、われわれに必要なことは、儒教的な徳を説くことではなく、徳のいらない社会をつくることであるというのである。ここから老子は自然と調和した生き方を主張するのである。

人生や宇宙をこのようにみる老子にとって、賢明な生き方とは、世俗への執着心を捨て、常に人の下手に出て人と争わず、また、何ごともあるがままに素直に、作為をろうせず自然にしたがって生きることであった。そして、そのように生きられる [45]こそ理想社会であると説いた。

このような老子の考え方をさらに徹底して、心の平安と自由の境地にいたる方法を説いたのが莊子である。莊子は、ありのままの世界は、本来、[46] と考える。そして、功績や名声など自己への執着と分別の心から人間の苦しみが生まれるとし、こうしたことから自由となり、虚心になって天地自然と一体となる [47] の境地に遊び、与えられた寿命をまっとうする人を真人とよんで、賢い生き方の理想とした。

問1 文章中の空欄 [42] ～ [47] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | |
|------|--------------------|--------------------|
| [42] | [① 玄
③ 無 | [② 大
④ 一 |
| [43] | [① 人間
③ 絶対 | [② 相対
④ 宗教 |
| [44] | [① 孝悌
③ 仁義 | [② 孝慈
④ 忠臣 |
| [45] | [① 柔弱謙下
③ 桃花源記 | [② 無為自然
④ 小国寡民 |
| [46] | [① 不立文字
③ 一切皆空 | [② 万物齐同
④ 見性成佛 |
| [47] | [① 三昧
③ 逍遙遊 | [② 自然法爾
④ 蝸牛角上 |

問2 次の『老子』の引用文中の空欄〔48〕に入る最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

大国を治むるは〔48〕を煮るがごとし。(大国をおさめるには、〔48〕を煮崩さないように無為でいるのがよい)

- ① 大根 ② 豚肉 ③ 人参 ④ こざかな

問3 老子が理想とする君主の姿として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
〔49〕

- ① 民が賞賛して親しむ君主
② 民が存在だけしか知らない君主
③ 民に侮られる君主
④ 民に恐れられる君主

問4 次の『莊子』の引用文中の空欄〔50〕に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

ある時、顔回が孔子に「私にも一つの進境がありました」と言った。孔子が「それは何かね」とたずねると、「私は礼楽を忘れることができるようになりました」と告げた。孔子は「わるくはないが、まだたいしたことはないね」と言った。

その後、顔回はまた孔子に会い「私にはまた進境がありました〔 50 〕ができるようになったのです」と言った。これを聞いた孔子は思わず顔色を引き締め、「〔 50 〕というのは、どういうことかね」とたずねた。

「自分の身体や手足を忘れ去り、目や耳の働きをなくし、形のある肉体を離れ、心の知を捨て去り、あらゆる差別を超えた大道にどうかすること、これが〔 50 〕です」

これを聞いて孔子は言った。「道と一体になればもはや好悪の差別の心はなくなるし、変化のままに従うならば、特定のものだけを追い求める心もなくなる。お前はやはりたいした人間であった。私も、お前の教えを乞わねばなるまい」

- ① 瞑想 ② 心齋 ③ 大悟 ④ 坐忘

これで問題は終わりです